

日赤病院図書室協議会公開講座に参加して

高田 幸子

日 時：2003年8月1日

場 所：日本赤十字医療センター講堂

テーマ：利用者への情報手段としてホームページの活用他

日赤図書室の公開講座を受講するのは、今回で2回目です。前回初めて参加させて頂いた日赤本社での講座は、皆様が仲間同士という雰囲気、とても暖かいものを感じました。

内容では、ナレッジマネジメントという言葉にひかれて参加させて頂きました。実際に企業で活躍されている方々の、実践を通したお話を伺うことができ、とても勉強になりました。その後、当院でも内科の先生を中心として病院でのナレッジマネジメントについて考える会が設けられているのを知り、改めて良い勉強をさせて頂いたのだと思った次第です。

今回の講師の方々も、どなたも達人ばかりで教えられることがたくさんありました。

(1)「利用者への情報手段としてのホームページの活用」では、大学図書館員の心意気がとても感じられる内容でした。ホームページの内容については、組織目標を立てて非来館型利用者を対象にして顔の見える環境での遠隔操作をするという内容でした。

(2)「これからの病院図書室」では、今回一番聞きたい内容でしたので、とても興味をもってお聞きすることができました。このテーマは、日赤医療センター院長・増田先生のお話だったのですが、「患者さんに選ばれる病院はアメニティも大切だけれど医療の質が一番大切である」こと。また、「病院図書室として大切なことは、医師に正確な医療情報を提供する事であり、患者さんにほしい医療情報を提供すること

である」と強調されました。患者さんのほしい医療情報とは、①いつでも、②どこでも、③はやく、④せいかくに、⑤わかりやすく、⑥やすく、というとてもわかりやすいお話でした。

日赤医療センターの医学図書室も今年の7月から患者さんに公開されるようになったそうです。私の勤める富山市民病院も来年早々には患者図書室を待合室の一角に創ることになっています。先生が話された、「患者さん自身が納得して治療をうけるには、まず自分の病気について知ることがいかに大切か」を考えさせられました。

(3)「インターネットをレファレンス業務に活かす」では、Googleの検索鉄人という関さんにお話を頂いたのですが、目からうろこはこのことかと思いました。まずキーワードの使い方について、①単純なキーワードは使わない②なるべく専門用語を使う③最初に大きなキーワードで絞り込む④フレーズでさがすことが重要ポイントであることを紹介されました。オプション機能も充実しており検索オプションを上手に使うことにより幅広い検索ができることがとてもよくわかりました。

(4)「病院経営と図書室マネジメント」では、竹田総合病院の司書の方が、図書室としての「ビジョン TAKEDA2010」に基づいた取り組みについてお話をされました。とてもしっかりした5つの目標があり、それにそって司書の方が活動されている様子がよくわかりました。私も今年で司書になりまして7年目を迎えました。今まで病院図書室の方々をはじめ皆様に助けられてここまで来たのですが、これからは、当院の職員の方々への正確な医療情報の提供はもとより、患者さんや地域の住民の方達に安心して利用して頂ける図書室を目指して、私なりの5つの目標を作ってみたいと思っています。これからも皆様のご指導をよろしくお願い致します。